

# コロラド大学へ市内の医師を研修派遣

## ～ 高山・デンバー友好協会の交流事業 ～

高山・デンバー友好協会では、姉妹都市であるデンバー市(米国)との新たな交流として、市内に在勤する研修医をコロラド大学へ2週間派遣するプログラムを実施しています。

このプログラムは、高山市とデンバー市の医療関係者同士のネットワークの構築、そして外国の医療現場を体験することによる新たな知識の習得を目的としています。

今回、研修を終えた高山赤十字病院2人、久美愛厚生病院1人の方のレポートを紹介します。

### 高山赤十字病院

研修医 いまいずみ としのり  
今泉 俊則 さん



平成26年7月14日から7月25日までコロラド大学病院研修に行って参りました。

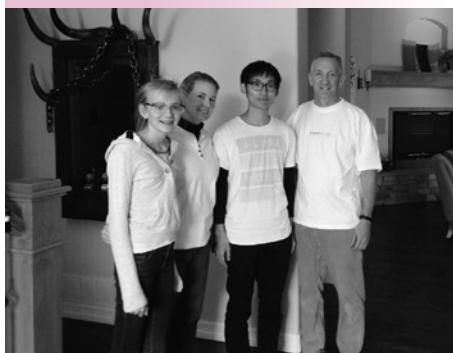
高山市はアメリカ・コロラド州デンバー市と姉妹都市提携を結んでおり、1960年から交流を続けています。そのような背景もあり昨年度から本研修が始まりました。

第1週の救急科では、現地の医師が診察したり、ディスカッションしたりするのを見学しましたが、非常にしっかりした屋根瓦式教育システムで興味深いものでした。現地の医療者からみてもコロラド大学病院の救急部は巨大らしく、70室近い個室の診察室があるのには驚きました。第2週は小児病院で感染症科の研修でした。全米で、患者家族が選んだ第5位の小児病院だそうです。感染症科での診察は本当に丁寧で、1人の患者に対し何度も何度もディスカッションを重ね、治療方針を決めていました。非常に貴重な機会を与えて頂いたことに感謝申し上げます。

今回の研修を糧に、日々の診療に励みたいと思います。

### 高山赤十字病院

研修医 なかしま だいき  
中島 大樹 さん



平成26年10月、高山市、高山デンバー友好協会、高山赤十字病院の協力のもと、姉妹都市であるデンバー市のコロラド大学病院で救急科、感染症科で2週間研修しました。

研修する前にも聞いていたことでしたが、救急科では規模の大きさやシステム化された診療、感染症科では専門性の高さを感じました。また、普段の診療では見る機会の少ないような外傷や薬物中毒、AIDSなどの患者さんも見ることができました。

現地ではホームステイをさせていただき、研修以外の時間もデンバーでの滞在を楽しむことができ、自然が豊かで文化もあり、都市部もあるデンバー市の魅力を感じました。私は海外の病院をみることに、ホームステイをすることは初めてで、今回の研修はとても良い経験になりました。今後に生かしていきたいと思います。

最後になりますが、高山市とデンバー市の友好関係がさらに深まっていくことを願っております。

### 久美愛厚生病院

研修医 ひらせ しょう  
平瀬 翔 さん



「めちゃくちゃ寒いよ(-20℃以下?)」と院長以下多くの人に聞かされた彼の地、デンバーですが私の日頃の行いが良いのか(笑)異常気象でとても暖かい真冬のデンバーでの研修は想像以上に興奮に満ちたものでした。

実は隣のオーロラ市にあるコロラド大学病院では内分泌内科とERで研修し、向こうの研修医やフェローと同様に、スーパーバイザーと言われる医師が私の英語が拙いにもかかわらず付きっきりで指導して下さり多くの事を学びました。一番驚かされたのは、この日本とは比較にならないほど充実したこの教育体制です。優しく面白い先生達ばかりで、ERの先生達など「アメリカの寿司を食べてない?それはいけない!」と連れて行ってくれました。

ホストファミリーとの生活も休日に温泉や教会のミサに行ったり、文化や政治経済について夜遅くまで話したり、自分が日本食を作ったりとても充実したものでした。

高山市のプログラムのおかげでとても楽しい研修留学が出来ました。